

# 研究 報告

## 割れ粃がカスミカメ 2 種による斑点米被害に 与える影響

—広域リスク評価に向けた 8 品種の比較—

農研機構東北農業研究センター **た** **ふち** **けん**  
農研機構中央農業研究センター **さくら** **い** **たみ** **と**  
**田** **沢** **研**  
**櫻** **井** **民** **人**

### はじめに

水稲子実を加害するカメムシ類は 65 種が知られ（川村, 1993）, 粃の頂部や側部等を吸汁して玄米に部分着色粒を産出する被害を起こす（以下, 斑点米被害もしくは被害と記す）。斑点米カメムシ類が 1999~2001 年に全国的に多発して以降, 各都道府県による警報の発表は徐々に少なくなっているものの, 注意報の発表は増減しながら同じ程度の水準で推移している（図-1）。斑点米カメムシ類は未だに被害面積が最大の水稲害虫として知られ（農林水産省, 2019）, 被害が常態化している。

これまでの研究から, 斑点米被害に影響する要因については数多くの知見が蓄積されており, 水田内外の生物的・非生物的要因によるものが整理されている（田沢ら, 2015）。水田内の生物的要因のうち, イネの形質によって左右される要因の一つが割れ粃である。割れ粃は主要加害種のうちカスミカメ 2 種（アカスジカスミカメ

*Stenotus rubrovittatus*・アカヒゲホソミドリカスミカメ *Trigonotylus caelestialium*（カメムシ目：カスミカメムシ科）による被害, 特に玄米の側部被害を助長する（宮田, 1991；米沢ら, 2005）。割れ粃は出穂期前後の気象条件の影響を強く受け, 幼穂形成期の低温と出穂期後の高日照や高温によって助長される（中島ら, 2012）。水稲は品種ごとに割れ粃発生程度が異なることが経験的に知られており, 単一自治体内で複数品種・育成系統を対象とした割れ率と被害の発生状況比較が行われてきた（大場・小野, 2004；田村ら, 2017）。しかしながら多数の品種を扱った一般的な傾向の検討はまれである（例えば, 上野, 2004）。作付け品種が異なる自治体間, または同一地域内で複数品種を栽培している場合には, 品種の違いによって被害発生程度が異なることが予想される。しかしながら現状では複数品種間の被害発生程度の比較や評価が困難であり, これまでに得られた知見は乏しい。

また, 斑点米被害を起こす種についても発生状況に対

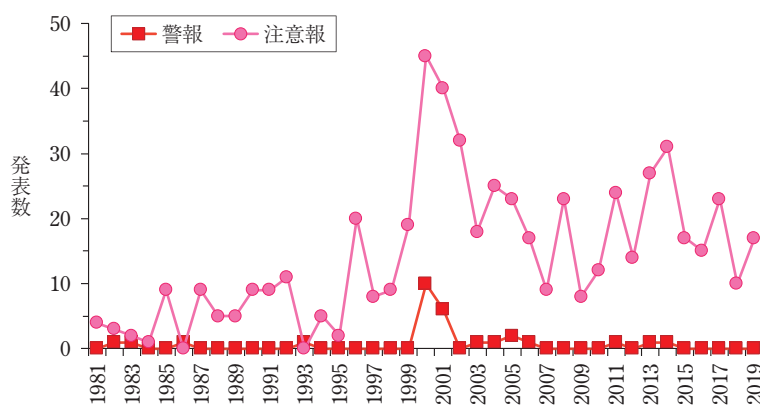


図-1 斑点米カメムシ類に対する注意報・警報の発表数の推移  
(JPP-NET のデータより作成)

Relationship between the Occurrence of Split-hull Paddies and Incidence of Pecky Rice Damage Caused by Adults of Two Mirid Pests. By Ken TABUCHI and Tamito SAKURAI

(キーワード：広域害虫管理, 斑点米, 水稲害虫, 割れ粃, 品種間差)